

令和8年度俳句ポスト第一回入選句決定しました。

子どもの部 35句

一般の部 5句



風流のはじめ館

俳句ポスト第一回入選句

第36号

令和8年9月号

投句状況

第一回
投句者 1,317人
投句数 4,872句

俳句ポスト 投句募集

まんまるなこおりみたいなしやぼんだま
須賀川幼稚園 梅森翔子
とうもろこしきいろいひげのおじいさん
須賀川市 志知允太朗
なつのよるせんぷうきだけおしやべりだ
須賀川市 佐久間心優
はやおきがなぜかできちゃうなつやすみ
須賀川市 鈴木唯月
きょう食べたブルーベリーは雨のあじ
須賀川市 村松怜
たんぽぽのわらい声が聞こえたよ
須賀川市 梅森裕子

はすかひに大海はあり稲の花
鏡石町 齋藤律子
アリーナに巡業の旗夏旺ん
須賀川市 佐藤安喜
寒晴や山存分に息を吐き
須賀川市 関根邦洋
用もないのに保健室あたたかし
須賀川市 西間木正行
雲群るる如くにありぬ白牡丹
横浜市 藤英樹

おとうととクワガタみたいにけんかする
西袋第一小2年 棚邊涼真
みずのなかおおきくみえたばばのかお
西袋第一小2年 吉田成華
青ぐりがチクチクプンプンおこってる
稲田学園2年 折笠光咲
せんぷうきぼくもさゆうについていく
阿武隈小2年 熊谷弦一朗
なつのうみゆうやけこやけみかんいろ
柏城小2年 金子蒼
こまつながぐんぐんのびるまだのびる
柏城小2年 渡邊風
みずたまりいつでる手足かえるのこ
白江小2年 小島旭陽
せみのから生きてるみたい立体だ
須賀川市 大竹陽日
せみのからはものみたいな手の先だ
須賀川市 二瓶明瑠翔
きゅうりなすつかまえた手もぬかづけだ
須賀川市 佐久間優歩
アサガオのねじれたつぼみパツとさく
阿武隈小3年 秋山結希乃
なんだこれはじめてさわる花氷
大東小3年 佐藤菜愛
はつきゅうりハサミで切るよパチンパチン
白方小3年 赤羽遥斗

ありんこが指のかいだんのぼってる
須賀川市 森山心琴
今日もまた金魚のあくびパクパクと
西袋第一小4年 関根望心
菜の花にかくれているよモンキチヨウ
柏城小4年 小池こころ
ゆきのあとたどっていった帰りみち
柏城小4年 小針羽菜
夏の海大きな空をすいこんだ
柏城小4年 渡邊美生
夏休み宿題だけがついてくる
須賀川市 草刈奏人
みそはぎの小さな花を花束に
西袋第二小5年 佐浦あさひ
夏のうみ四方八方空の色
柏城小5年 遠藤陸
かみゆらすやさしい風の竹うちわ
柏城小5年 安田心
キャベツの葉むけばかがやくみどり色
白方小5年 鈴木柚稀
夏休み父ちゃんとするだいくさん
須賀川市 鈴木彪真
花火師の父の背中や夏休み
西袋第一小6年 添田大翔
暑くても友と遊べばふつとぶさ
阿武隈小6年 西間木芽生
あじさいの花びらにつく雨の子ら
阿武隈小6年 樽井心愛
うぐいすがなくここにもういない
白方小6年 久保田願央
北風が私を中にとじこめる
須賀川第二中1年 鈴木あおば



こども和文塾

夏休みこども俳句教室

水てっぽうに花氷、今年はちよこつとおばけ屋敷やかやの中で涼しさを感じる季語を探し、俳句の先生やお家の人と俳句を作りました。まずはものを見て、季節を感じて、十七音に表現する、ワクワクを発見した時間でした。



かやの中で俳句づくり

俳句出前教室

市内の児童クラブ館に俳句の先生が出向いて、俳句づくりの楽しさを学びました。次々と素敵な俳句ができあがりま



まんまるなこおりみたいなしやぼん玉
なつのそらからすのはねのしろとくろ
ピーマンやパッキンはじけた花火みたい
ほおずきがふくらんでいる半緑
かさおばけ目と足ひとつペロペロバー
かやの中かいだん話ひそひそと
当たらない水てっぽうの丸いまと



ばけはけ こわいむかし話

夕闇に包まれるころ、
小泉八雲の怪談「耳なし芳一」や「へろくろ首」などのゾクッとこわいむかし話の会を開きました。



自分の言いたい言葉を
にぴったりな言葉を探します。



地域学習

須賀川市立第一中学校一年生の生徒が「須賀川と俳句」のこと、「市原多代女や雨林亭梅陽つて、どんな人？」を学びました。ことは遊びをした後は、須賀川知る古会さんの案内でまちなかを散策しました。



雨林亭梅陽

1785-1852
市内今泉(旧岩瀬村)生まれ。芭蕉を慕い、妻と共に諸国を巡り歩いた俳人。俳人の聖地である「松島」の瑞巖寺に句碑があります。

市原多代女

1776-1865
須賀川の造り酒屋に生まれる。晩学ながら俳人として歩みをはじめ、家業に家事、子育てを両立した江戸時代の代表的な女流俳人。



収蔵品の紹介



木版画「荒海や」小野塚虎男

荒海や佐渡によこたふ天河 芭蕉

いずもはな 出雲崎(新潟県)から遠く佐渡島を詠んだ句。荒々しい波の立つ暗い日本海の向こうの佐渡を見ることはできないが、天を仰ぎ見ると、大きく流れる美しい天の川が横たわっている。(季語) 天河/秋
芭蕉ならではのスケールの大きな描写で「おくのほそ道」を代表する名句のひとつです。



言葉

虫すだく

虫集く 虫の音が幾重にも重なってにぎやかな様子のこと。「虫しぐれ」は多くの虫たちが一斉に鳴く声を時雨の雨音になぞらえています。



行く秋や手をひろげたる栗のいが 芭蕉

栗



風流のはじめ館の栗は、ずしりと重みがあり、光沢があつて風味の良いもの。須賀川の先人たちがずっと大切に植えて、継いできた栗の木です。



お知らせ

すかがわ大人塾

10・11月の参加者募集中です。

秋の花でたのしむ

花生け時間

秋の翠ヶ丘公園

野の花をしる草をしる

志野流香道

香りをたのしむ



次回テーマ展 歳時記を読む —花と鳥と虫と—

10/10(土)
-12/14(月)



風流のはじめ館HP



講座申込

電話またはオンライン受付
←こちらから

企画展、講座、イベント情報は当館公式HPをご覧ください。